

令和3年度生徒指導サポート実践校 「特別活動の取組事例」

学校名	海田町立海田東小学校	校長	石川和明	生徒指導主事	小島健次
-----	------------	----	------	--------	------

取組事例名 『ことばについて考えよう』

取組における育てたい資質・能力

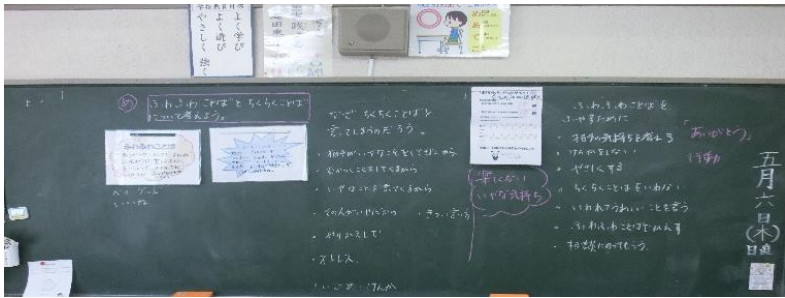
人間関係形成	社会参画	自己実現
「コミュニケーション能力」 1	「主体性・積極性」 2	「自己理解・自らの自信」 3

取組のねらい

- ・学級の中で使われる言葉について注目し、相手のことを考えた言葉が使えるようになる。
- ・友達とよりよい人間関係を築くために、言葉の使い方について考える。
- ・学校全体として、言葉について考えることを通してよりよい人間関係づくりにつなげていく。

取組の具体的内容

- ・生徒指導主事が各学級で学級会活動（2）指導項目（2）ーイ「よりよい人間関係の形成」の授業をT1として実施する。（週案 「ことばについてかんがえよう」（2）ーイ）
- ・1～3年生、なかよし1組 2組「ふわふわことばとちくちくことば」、4～6年生「ありがとうでつながろう」学習指導



- ・授業実施後、1～3年生は、各学級で日々様々な場面で振り返るように声をかける。4～6年生は、授業実施から2週間毎日振り返りをカードに記入する。
- ・振り返りカードを生徒指導主事まで提出する。

取組の創意工夫

- 『キーワード 児童の実態に応じて』
- ・担任と生徒指導主事が連携したうえで、より児童の実態に応じた授業づくりをした。
 - ・発達段階を考慮し、低学年と高学年で授業内容を変えた。
 - ・授業で子どもたちから出たふわふわ言葉をその後も意識できるよう掲示した。



取組の成果と課題

- 全学級で同じテーマで授業をすることができたことで、その後の児童のトラブルについて、全教員が共通認識のもと指導ができた。
- 相手のことを思いやり、言葉について考えて話す児童が増えてきている。
- 言葉による児童相互のトラブルが減ったと感じる学級は、16学級中13学級となり、児童の中でも言葉を意識した関わりをしている。
- 昨年度と今年度の東京書籍標準学力調査の i-check の経年比較をしたところ、「いじめのサイン」と「対人ストレス」を含む「リスク管理」の項目において、下の表のように5学年中4学年で肯定的な評価が増えている。（第1学年は昨年の結果と比較できないため除外している。）
- 昨年度と今年度の東京書籍標準学力調査の i-check の経年比較をしたところ、「いじめのサイン」と「対人ストレス」を含む「リスク管理」の項目において、下の表のように肯定的な評価が増えている。

「リスク管理」肯定的評価の平均

	5学年平均
令和2年度	72.0
令和3年度	75.0
肯定的評価の伸び	3.0

- 授業で使用したふわふわ言葉を一定期間掲示してもらい、児童の意識付けを行い、児童の中からもふわふわ言葉を意識して使う児童が増えてきたが、継続して児童が意識して使うことができるように指導を工夫する必要がある。